



文化財ガイド



KAMINAKA
上那賀



これはすごい！
地元民も知らなかった
那賀町のさまざまな地区に現存する
文化財をまとめました。

四国山地の雄大な自然、清らかな水、長い歴史
の中で育まれた豊かな文化。

「時を超えて現存」する、先人たちの生活や信仰、
そして、彼らの生き方や考え方に触れる、
貴重な資料がここに。



KITO

木頭

KISAWA

木沢

相生
AIOI

就敷
WAJIKI

WAJIKI



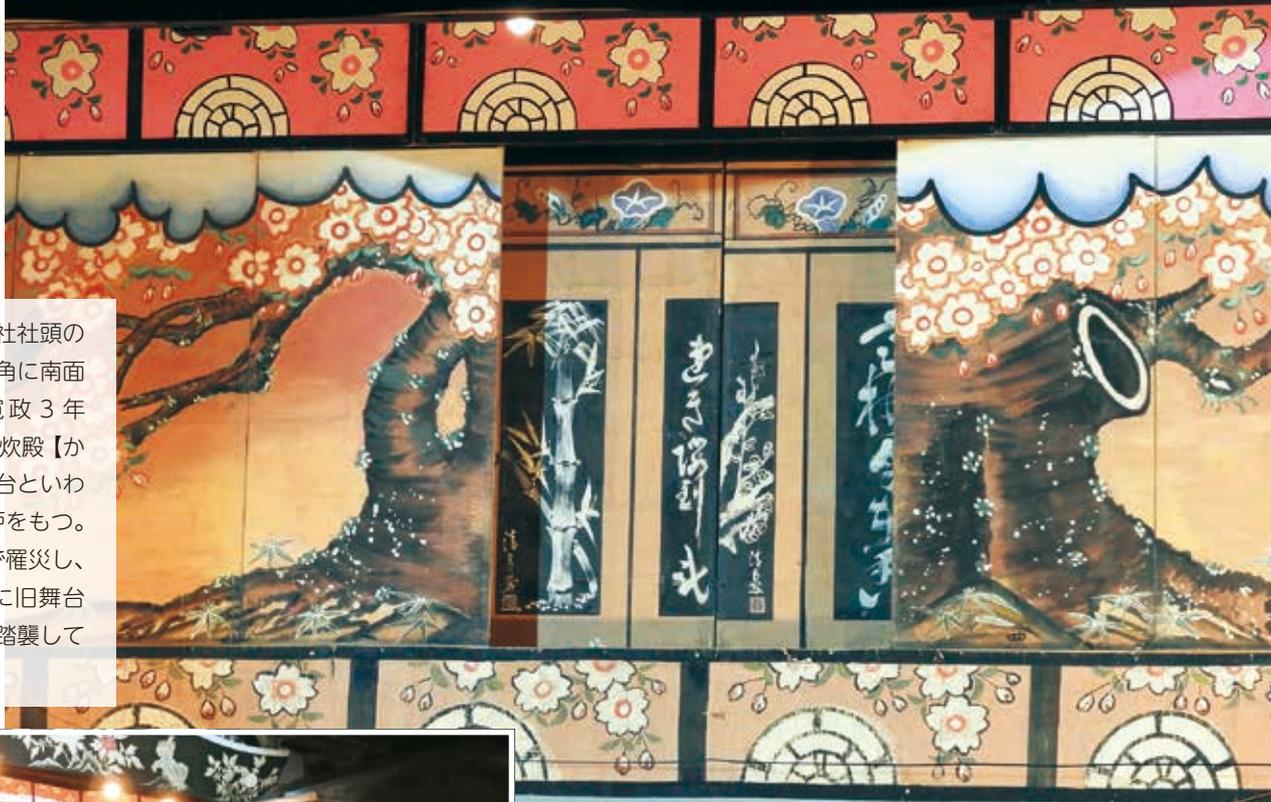


重要有形民族文化財

坂州の舞台

地図①

坂州の舞台は、八幡神社社頭の平坦部右手に、社殿と直角に南面して建つ。伝承では寛政3年(1791年)に建設された炊殿【かしきでん】を転成した舞台といわれ、内部には2つの切り炉をもつ。明治25年(1891)洪水で罹災し、明治31年(1898年)に旧舞台の規模と形式をそのまま踏襲して改築された。



徳島県は国内で現存する舞台数が最も多い県の一つで、そのほとんどは人形舞台である。坂州の舞台は、徳島県内の人形舞台の典型的なものの一つであり、日本の農村の舞台を考える上で重要である。

重要無形民族文化財

阿波太布
製造技術

地図②



太布は、コウゾの樹皮から繊維をとり、目の粗い布で織られた堅牢な布で、徳島県では、剣山麓の祖谷地方や旧木頭村が主な産地であり、「阿波の太布」の名で古くから知られてきた。その用途は、仕事着を始め、穀物や弁当などを入れる袋、畳の縁などで、丈夫で長期の使用に耐え得る実用衣料として使用されてきた。



伝承地域 現在、木頭地区の有志によって結成されている太布製造技法保存伝承会が太布の製造技術を伝承しており、太布庵と称される伝承施設も地区内に設けられていて、一年を通して活動が行なわれ、技術の継承が図られている。

重要無形民族文化財

阿波晩茶
製造技術



樽で漬け込んで
新たな乳酸発酵を促す



阿波晩茶は、ヤマチャと呼ばれる山地の茶の葉を用い、家ごとに自給中心に製造されてきた発酵茶である。日本茶の大部分は、煎茶、番茶などの緑茶の不発酵茶であり、それらは熱処理をして茶葉の発酵を抑制した茶であるが、一方の発酵茶は、多くが熱処理をしない自然発酵で、なかでも阿波晩茶は、熱処理を加えて茶葉の酸化発酵が生じないようにした上で、さらに漬け込んで新たな乳酸発酵を促すという特徴がある。

特徴 カフェインが少なく、植物性乳酸菌発酵による整腸として、または高血圧や糖尿にも効果があるといわれている。

伝承地域 阿波晩茶の製造技術は、徳島県勝浦郡上勝町、那賀郡那賀町、海部郡美波町などで、四国山地の標高数百メートルの山間部の地域に伝承されている発酵茶の製造技術である。



重要無形民俗文化財

阿波人形
浄瑠璃

阿波人形浄瑠璃の起源は定かではないが、阿波人形師の祖とされる馬之瀬駒蔵【うまのせこまぞう】が阿波に移住し、活動した時代が享保年間 1716-35 年) と伝えられることから、少なくとも 18 世紀前半には阿波の人形座の活動が始まっていたと思われる。昭和期には、映画などの新たな娯楽の登場や戦争の影響などで急速に衰えた。しかし戦後は昭和 28 年の(財)阿波人形浄瑠璃振興会の結成なども契機となり、現在ではいくつかの座の活動が復活しており、祭礼での奉納上演のほか、振興会主催の大会など各種催し物で公開されている。阿波人形浄瑠璃は、首の大型化など地方独自の工夫で展開した人形浄瑠璃であり、わが国の芸能の変遷の過程を示すものとして特に重要である。

徳島県の各地に伝承されている義太夫節【ぎだゆうぶし】による三人遣【さんになづか】いの人形芝居であり、各地の農村舞台で地元の神社の祭礼などの機会に上演されてきた。阿波では、近世に阿波・淡路を領国とした蜂須賀【はちすか】家が人形芝居を保護奨励したことにより、先進地である淡路の人形座が徳島城下をはじめとする各地で盛んに興行を行ったことが知られている。



天然記念物

地図③

坂州不整合

「坂州不整合」は、徳島県坂州木頭川にある古生代ペルム紀と中生代三畳紀との境界を示す不整合である。礫岩層を挟んで、ペルム紀の海溝堆積物である付加体とトリアス紀の浅海堆積物が接しており、日本列島の大変動を示す重要な露頭として、2011(平成 23)年 2 月 7 日に国指定の天然記念物に指定された。

発見された昭和 28 年当時は、中央構造線より北側(西南日本内帯)の地域では、秋吉造山運動と呼ばれる古生代末から中生代始めにかけて起こった大規模な造山運動が想定されていたが、「坂州不整合」の発見は、秋吉造山運動という日本列島の骨格を形成する造山運動が、中央構造線の南側(西南日本外帯)にまで及ぶ地史上の大事件であったことの論拠となる大きな発見となった。



天然記念物

タヌキノ
シヨクダイ

照葉樹林下の落葉の下に生える帯白色の小型の菌従属栄養性の多年草。タヌキがろうそくをのせた燭台をもっている形に似ていることが由来。

日本で有名なタヌキノシヨクダイの生育地は、徳島県那賀町であり、落ち葉の下でひっそりと咲くことから発見することはとても難しく、本町のように同じ場所で毎年咲くことも非常に珍しい上に、その数多年によってまちまちとなっている。



特別天然記念物

カモシカ



ウシ科ヤギ亜種の動物で、北海道と中国地方を除いた本州、四国、九州に生息する日本固有の種である。体色は、黒褐色や灰褐色が多く、雄雌ともに角を有しており、反芻性、草食の動物で岩場や急斜面のある森林

に生息。低木の葉・芽・小枝・花・実等を好む。主に早朝と夕方に活動する。

天然記念物

ヤマネ



ニホンヤマネの分布は、本州、四国、九州と隠岐島後で 25 都府県に分布するがまとまりのある個体群は少ない。1 科 1 属 1 種であり学術的に貴重なことから国の天然記念物に指定されている。

登録有形文化財(建造物)

圓明山 萬福寺



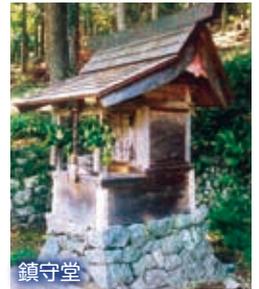
本堂



鐘楼



蔵



鎮守堂

本尊『薬師如来』（寄木造り坐像室町時代の作風）文治二年（1186 年）開創とも伝えられており、永禄四年（1561 年）秀信僧都によって現地に移された。

本堂のほか、鎮守堂、鐘楼、蔵ともに貴重な歴史的建造物として登録有形文化財に指定されている。

登録記念物

地図⑤

南海地震 徳島県 地震津波 碑

※軒(キロメートル) 長さの単位。

徳島県では過去、繰り返し発生する南海地震の津波により大きな被害を受けてきた。そして、それらの被害の状況を後世に伝えるため、各地に地震津波碑が建立された。妙法寺(谷内)の庚申塔には、嘉永7年の大地震により再興と刻されているが、海岸から 20 軒*も奥地の山中にある震災碑銘はとても珍しい。



徳島県指定文化財

名勝天然記念物

地図⑥

剣山 並びに 亜熱帯 植物林



剣山は、標高 1955 m の高山で、国定公園の主峰である。中腹は、冷温帯を代表するブナ林の中心であり、標高が 1600 m ともなると、樹相は一変して針葉樹林帯に入る。更に標高を加えると、亜高山帯のシコクシラベが出現し頂上一帯に見事な樹林をつくる。山頂部は絶えず強風にさらされるため背の高い木本類は育たず、草原となっている。気温は著しく低下し、年平均気温は摂氏 4.2 度前後、最低気温は零下 10 数度になることもまれではない。

この一帯には剣山で初めて名前がつけられた植物や高山の珍しい植物が多く、頂上の草原には、マイヅルソウ、タカネオトギリ、ミヤマアキノキリンソウ、トゲアザミ、シコクフウロなどが生育している。また、石灰岩の露岩地などにはタカネバラ、ツルギハナウド、キレンゲショウマ、ケンザンデングなどの貴重な植物が多い。



シコクフウロ



ツルギハナウド



キレンゲショウマ



シコクシラベ

天然記念物

地図⑦

ボウランの北限自生地



ボウランの花

科名・属名 ラン科 ボウラン属

分布・生育地 本州(近畿南部)～沖縄(国外:中国(南部)、台湾)で樹幹、岩上に着生。

所在する蛭子神社が国内での北限自生地である。

名勝

地図⑧

鷺敷ライン及び氷柱観音



ナカガワノギク



カヌー競技



氷柱観音

那賀川中流の景観を見ると、田野より上流では蛇行が著しく、古い蛇行の跡は段丘を伴う三日月型の谷底平野を形作る。中でも那賀町細淵から観音の間的那賀川は鷺敷ラインと呼ばれている。段丘を下って河原に降りると、岩盤の浸食による凹凸の多い河床には、奇岩が並び立ち、急な瀬と深い淵が交互に現れて、豪壮な流れのある風景が展開する。

有形文化財(書跡等)

大宮八幡神社
大般若経
(600冊)

地図⑨



本経は紙本に、1行17字詰、1折5行で墨書されている。10冊ごとに帙に入れ、4帙40冊を経箱におさめ計15箱として保存されている。南北朝期から室町初期にかけて、1378(永和4)年から1399(応永6)年の22年間に書写されている。

四国山地の一角であり、材木生産地にもなっている那賀山庄で、南北朝末期・室町初期という時点に在地豪族湯浅氏が豊かな文化的な活動を展開していたことが示されている点で貴重である。

※帙(ちつ)…書物を包んで保護し保存する装具の一種。

有形文化財(歴史資料)

雲首形位牌

長講堂領那賀山庄の一角を構成する那賀郡

旧和食村に15世紀にさかのぼる3基の位牌が残されている。そのうちの1基が谷家、もう2基は1組として生杉家に伝来する。黒漆塗雲首形位牌で、谷家のものは全長64.5cm、生杉家のものは54.1cmと大型である。牌身の表面には谷家のものには「前任単傳雲

岡慧公記室禪位覚位」、裏面に「岩文明十八丙午歳三月七日」と陰刻され、生杉家の1基には「今上皇帝聖寿萬安」、他の1基に「本寺壇那本命元辰」と陰刻されている。そして生杉家の1基の台座裏には「応永廿七年庚子仲日願主南珠住持梵賀謹」と墨書されており、製作年代は1420(応永27)年であり、谷家位牌より60年ほど古い紀年銘をもつ典型的な逆位牌である。



地図⑩

無形民俗文化財

吹筒煙火

那賀町吹筒煙火保存会は、江戸時代から伝わる吹筒煙火の技法を継承し、県内の夏祭り等の各種イベントで披露したり、煙火技術の向上や後継者育成のため大宮八幡神社や龍王神社で競技会を開催したり、年末にはカウントダウン吹筒煙火を披露したりして地域の文化振興に寄与している。この吹筒煙火は三河の手筒花火と並び、花火の原初形態を伝える貴重な民俗文化であり徳島県にとって貴重な民俗文化財であるといえる。

町指定 有形文化財

地図①

吉野神社
本殿



南宇にある吉野神社の創建は詳らかでないが、当本殿は、虹梁の彫刻や建築手法により、明治時代初頭の建立と思われ、身舎の柱頭部の組み物が三手先であることやその組み方が一般的ではなく、それぞれ45度の方向に肘木を出して派手な組み物にしており、また高欄の腰組にも手先を採用したりしているのが特徴であり、地方色や時代の様相が顕著で随所に彫刻を多用した秀逸な建物であることから、平成16年9月9日に町の有形文化財として指定された。

正光寺
仁王門

正光寺は正中元年(1324年)の開基と伝えられる古刹である。方丈は平成10年に改築されたが、観音堂と仁王門は江戸中期の建立である。仁王門は鐘楼を兼ねた入母屋造本瓦葺の三間一戸楼門で両脇に仁王を安置する。

棟札は未確認だが建立は宝永3年(1706年)で大工は覚工門と言われている。



緑の腰組 連斗を埋め尽くした二手先で、先端部は斗を使用せず、挿し肘木で直接縁葛を受けており、中央柱間には正背面とも町内でよく見かける角張った彫りの中備彫刻が施されている。

上層の壁面 正面中央間は火灯窓、両脇及び側面は連子窓とし、和様と禅宗様を混在させており、上層の組み物は尾垂木付の二手先で、一手先と二手先の間には波模様の彫刻支輪を備えている。

軒 和様の二軒繁の配付垂木である。楼門としてはやや小ぶりであるが、多用した組物や彫り深い彫刻により優美さを漂わせている。

地図②

正光寺
観音堂



観音堂は方丈の右奥にあり、方丈とは火灯窓を備えた回廊で繋がれている。

寺伝では元禄10年の建立で、丹生谷五十八か村の与頭庄屋・柏木氏の寄進と言われている。

様式 総破風の向拝を持つ入母屋造で、主屋組物は出三斗、軒は二軒疎垂木である。外観上は近年施された朱色の塗装が目立つが、組物間に臺股や彫刻などの中備装飾は一切無く、どちらかと言えば質素な造りである。それが堂内では一変し、内法長押から上部は全て彩色が施され手の込んだ優美な造りとなっている。

格天井 草花の絵と板欄間には天女などの絵が描かれ、組物はもちろんのこと、長押や台輪に至るまで良質な絵様で埋め尽くされている。色彩をふんだんに使って描かれたこれらの絵様は建築当時の物であり貴重である。

内部の角柱 大面取りで、その上部に台輪を回し、出組までさかのぼるものは少なく、優雅に描かれた絵様を残す観音堂と小ぶりながらも本格的な造りの仁王門は、ともに維持管理状態も良く、町内を代表する貴重な建造物となっている。

辺川神社 本殿

地図⑬

辺川神社の創立年代は不詳であるが、社蔵最古の棟札は享祿3年(1530年)である。

本殿 中規模の一間社流造銅板葺きで、延石基壇上に建ち、庇柱を虹梁形頭貫で繋ぎ、頭貫木鼻は龍の丸彫り彫刻としている。

柱上 連三斗を置き、連三斗上に6個の斗を並べる長い肘木を重ね、中備は設けずに、故事を題材とした人物像二体の彫刻をおき、梁間方向では、上段の肘木を様肘木とし、桁と身舎との繋ぎ絵材である海老虹梁を受けている。

辺川神社本殿は、三手先八方肘木組物や立体的な彫刻を多用した様相をよく示すものであり、神社建築の大工技術として価値の高いものである。



町指定 有形文化財(美術工芸品)



板碑(白石部落)

地図⑭

仏像・十一面観音像 他五体(白石部落) ①②③ 地図⑭



棟附帳(木頭支所) 地図⑯



大般若経(瑞伝寺) 地図⑮



涅槃像掛軸(瑞伝寺) 地図⑮



検地帳(木頭支所) 地図⑯

町指定 有形文化財 (美術工芸品)



当長茶羅軸(萬福寺)

地図④



熊野曼荼羅軸(萬福寺)

地図④



吉祥神



降魔神

神像四体 (大宮八幡神社)
悦山梵賀 63歳の作
応永32年(1425年)

地図⑨



人形芝居の頭 41 頭
(竹ヶ谷)

地図⑰



板碑(長安部落)

地図⑱

その他 写真にはないが、美術工芸品として、【阿弥陀三尊像(白石部落) 地図⑭】、【阿弥陀三尊像三体(長安部落) 地図⑱】、【刀剣(海部氏次作) 個人蔵 地図⑲】、【刀剣(脇差・短刀) 蔵王権現社 地図⑳】、【北岡家家系伝書 個人蔵 地図㉑】、【打物焼刈秘伝書 個人蔵 地図㉒】、【蜂須賀家家政文書 個人蔵 地図㉓】などが有形文化財(美術工芸品)に指定されている。

町指定 有形民俗文化財



七福神引幕(入野部落) 地図㉔



鱧口(木沢歴史民俗資料館)
わにくち

地図㉕

仁王尊像(黒滝寺)

地図㉖





農村舞台(拝宮白人神社) 地図⑳



農村舞台他(川俣磯神社) 地図㉑



地蔵菩薩像 (木沢歴史民俗資料館) 地図㉒

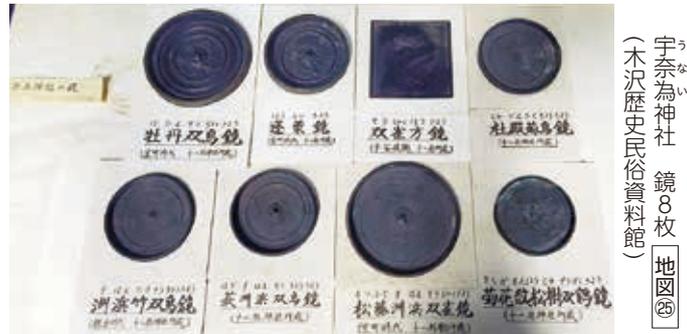


板碑 (木沢歴史民俗資料館) 地図㉓

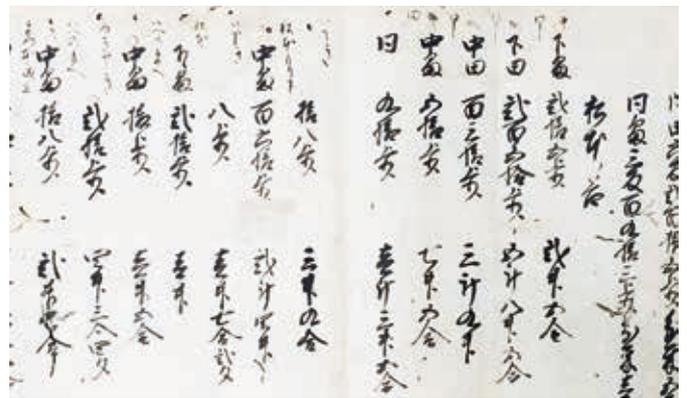
その他 写真にはないが、これらの他に【竜水引(入野部落) 地図㉔】、【棟附帳※坂部部落(木沢歴史民俗資料館) 地図㉕】、【天正検地帳(個人蔵) 地図㉖】が民俗文化財に指定されている。



宇奈為神社 那伊勢権現託宣記(木沢歴史民俗資料館) 地図㉗



宇奈為神社 鏡8枚 (木沢歴史民俗資料館) 地図㉘



天正検地帳(木沢歴史民俗資料館) 地図㉙



川成部落 木地皿8枚(木沢歴史民俗資料館) 地図㉚

町指定 無形民俗文化財



中山盆神踊り(中山盆神踊り保存会) 地図㉛

名勝



大釜の滝

地図①



千本滝

地図②



ほら貝の滝

地図③

天然記念物



和無田八幡神社門杉群

地図④



蟬谷神社大杉

地図⑤



名木大栃(小島神社)

おはたけ

地図⑥



五倍木の一本杉

ふしのき

地図⑦



大杉(拜宮白人神社)

地図⑧



名木灯明杉(黒滝寺)

地図⑨

- 阿波晩茶の製造技術 (那賀町阿波晩茶の製造技術保存会)
- 阿波人形浄瑠璃 (財団法人阿波人形浄瑠璃振興会)
- タヌキノショクダイ (世界的珍奇希少植物の指定)
- カモシカ (種の指定)
- ヤマネ (種の指定)
- 吹筒煙火 (特定非営利活動法人那賀町吹筒煙火保存会)



天然記念物

～豊かな自然と歴史的遺産の共存～
那賀町文化財 位置図



道の駅
 ガソリンスタンド

裏面に記載しております情報は、個人蔵のものや、広範囲の地域等、その他に関しては住所の記載はしていません。

史 跡



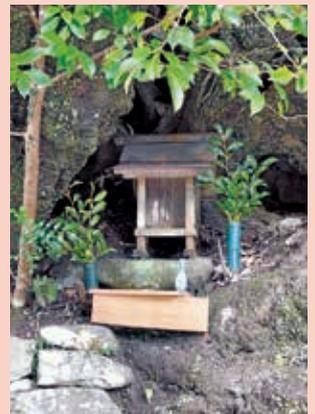
神領百合(ジンリョウユリ) 地図③⑧



延野城址 地図③⑨



兵助の墓 地図④⑩



梶浦与四郎の墓 地図④⑪

その他 写真にはないが、これらの他に史跡【勝郎太の墓(大久保) 地図④⑫】が指定されている。

して処刑された。【梶浦与四郎の墓】 梶浦与四郎は、蜂須賀家の家臣として派遣され仁宇谷百姓一揆を治めようとしたが討ち死にした。

お問い合わせ・場所

① 坂州の舞台	坂州八幡神社（那賀町坂州字広瀬 32）	
② 阿波太布製造技術	太布庵（徳島県那賀郡那賀町木頭和無田イワツシ 1）	☎（0884）68-2386
③ 坂州不整合	那賀町坂州	
④ 萬福寺	那賀町延野字寺前 20	❖本堂、鐘楼、蔵、鎮守堂 ❖当曼荼羅軸 ❖熊野曼荼羅軸
⑤ 妙法寺	那賀町谷内字下傍寺 94	❖南海地震徳島県地震津波碑
⑦ ボウランの北限自生地	蛭子神社（那賀町和食字町 154）	
⑧ 鷺敷ライン	那賀町百合細測～田野	
氷柱観音	那賀町田野	
⑨ 大宮八幡神社	那賀町鮎川字西宮 9	❖大般若経（600 冊） ❖神像（四体）
⑪ 吉野神社	徳島県那賀郡那賀町木頭南宇ムカイダ 6	❖本殿
⑫ 正光寺	那賀町平野字妙見前 37	❖仁王門 ❖観音堂 ▲観音杉
⑬ 辺川神社（邊川神社）	那賀町平野字中原 11	❖本殿
⑭ 白石部落		❖仏像・十一面観音像他（五体） ❖板碑 ❖阿弥陀三尊像
⑮ 端伝寺（天長山端傳寺）	那賀町木頭出原字テラモト 12	❖大般若経 ❖涅槃像掛軸
⑯ 那賀町役場木頭支所	那賀郡那賀町木頭出原字マエダ 34	❖検地帳 ❖棟附帳
⑰ 長安部落		❖板碑 ❖阿弥陀三尊像（三体）
⑳ 入野部落		❖七福神引幕 ❖竜水引
㉑ 木沢歴史民俗資料館	那賀町坂州字広瀬 83	❖鰐口 ❖那伊勢権現託宣記 ❖鏡（8 枚） ❖天正検地帳 ❖木地皿（8 枚） ❖地藏菩薩像 ❖板碑 ❖棟附帳
㉒ 黒滝寺	那賀町阿津江黒滝山 5	❖仁王尊蔵（二体） ▲名木灯明杉
㉓ 拝宮白人神社	拝宮字白人谷 1	❖農村舞台 ▲大杉
㉔ 川俣磯神社	那賀町川俣字ドウノ前 4	❖農村舞台 他
㉕ 大釜の滝	那賀町沢谷	
㉖ 千本滝	那賀町木頭名	
㉗ ほら貝の滝	那賀町岩倉	
㉘ 和無田八幡神社	木頭和無田字ヨシノ	▲門杉群
㉙ 蟬谷神社	那賀町木頭助字蟬谷上久保 79	▲大杉
㉚ 小島神社（八幡神社）	那賀町小島字平畑 43	▲名木大栃
㉛ 五倍木の一本杉	那賀町掛盤五倍木	
㉜ 神領百合	那賀町出羽字母林 3	
㉝ 延野城跡	那賀町延野字殿谷 111-1	

タヌキノシヨクダイ
発生地

【お問い合わせ先】

那賀町教育委員会 ☎（0884）62-1106
〒771-5295 徳島県那賀郡那賀町和食郷南川 136-2



※世界的珍奇植物で多年生の寄生草木（昭和29年12月25日～国指定天然記念物 時期：7月～8月頃）

【編集・発行】 那賀町教育委員会 TEL：0884-62-1106

【印刷・製本】 米崎印刷株式会社

【引用元】 文化庁「国指定文化財等データベース」